

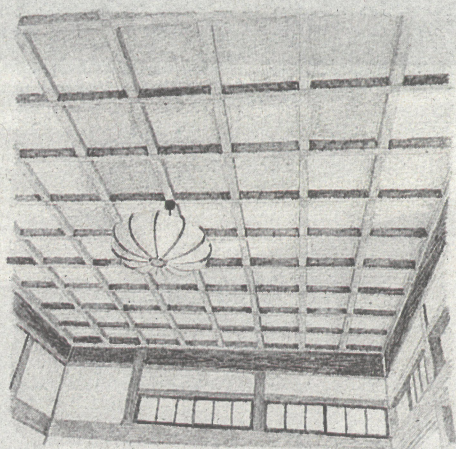
教えの庭から

住職に就任してから、毎朝必ず本堂でお経を30分以上読んでいます。この勤行は、30年以上続けています。歴代の住職たちもこの勤行を続けてこられました。その結果、長年にわたる読経による声の波動(音波)の響きが本堂の仏壇、天井板や柱の中に刻み込まれてきたと思います。木でできた板とか柱などは、音波で振動する空気を直接に刻み込んでいます。だから、本堂に入室すると刻み込まれた波動が放射されて、何か癒やされているような感じがするのです。長年にわたり読経を聞いて来た本堂は、生き物のようだと感じています。これは、寺の境内全体に読経の声は響き渡っているのです、その敷地に入ると、癒やされるような感

仏教を生活する

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

じがすると思います。私が心で感じることを言っている、科学的ではありませんが、宗教には科学を超える心で感じる現象があります。先祖代々と続き、お経が読みこまれた檀家さま



挿絵 平尾恵郷

の仏壇も、その前に座ると癒やされる感じがします。「山川草木悉皆成仏」とは「山も川も草も木も皆悉く仏に成る」という意味ですが、山川草木の自然の中

に真理、法則がそのまま見えてくる。だから、お経の声に感応して、波動を放射していると考えられます。法事の時には、「どうぞご唱和ください」と言ってお参り者と共に読経をします。法事とは、亡くなった人の冥福を祈るための僧侶による読経や焼香などの儀式のことで、追善供養とも呼ばれます。法事を依頼した方が、僧侶と共に読経を聞き、合掌・礼拝をし、焼香をすることにより、心の中

に、自然の法則がそのままだと知れるという意味です。その木から作られた柱や天井にも、おそらく自然の真理が埋め込まれている。日頃から先祖さまの位牌がある仏壇の前で読経する

は、あなたの心の中に来て、あなたの悲しみを癒やし、あなたを常に見守っているよ」と深い安心感をください。仏教の本を読んで理解しただけで、相変わらず損得だと言って生活していただけない。大切なのは仏教を生活すること(読経のある生活)だと思います。

「お念仏」があるのです。特に「般若心経」や「延命十句観音経」を繰り返し読み続けることが大切です。また、「南無阿彌陀仏」と仏様の名前を呼ぶこともまた大切です。

大切なのは、「仏様の方へ顔を向けて生きている」ということです。私たちは、すぐにあれこれ思い始めます。そこで、「読経」また